

通所リハビリテーションの宣伝活動

通所リハビリテーション デイ・ケア

○窪田訓子 坂田貴任 久野八重子

【はじめに】

ここ1～2年、当通所リハビリテーションでは利用者数が減少している。

周辺に通所事業所数が増加したこと、それらの施設がマシンやリハビリスタッフを充実させてきたことなどの外的要因や、入院による利用中止、地域住民や院内への宣伝不足などで新規利用者(新規相談)の減少となったことなどが主な要因として考えられ、利用者数の増加に向けて様々な取り組みを行ってきた。

今回は院内への宣伝活動の一環として、研究発表の場を借り、通所サービスについて説明する。

【目 的】

通所リハビリテーションに対する理解が深まり、外来・入退院患者への適切なサービスの案内が出来るような情報提供を目的とする。

【方 法】

平成20年9月・10月に札幌市介護予防センター東月寒・福住の協力を得て、ふれあい広場(参加者11名)、月寒会館(同32名)で、地域住民に向けて通所サービスについて話をした時の話しをした。

今回は、その時の資料を一部使用して事業の紹介をする。

デイケアとデイサービスの違い

	デイケア	デイサービス
日常生活 動作介助	○	○
個別機能訓練	○	○
短期集中リハ ビリテーション	○	×
医師	○	×
看護師 配置数	◎	○

通所リハビリテーション(デイケア)

- 病院や介護老人保健施設などの医療施設に設置。
- リハビリと中心としたサービスを提供。
- 日常生活上の世話を受けられる。
- 医療処置等も行うため、看護師が多数いる場合が多い。

通所介護(デイサービス)

- デイサービスセンターや特別養護老人ホームなど、介護老人福祉施設に設置。
- レスパイトケアが目的。
- 日常生活上の世話、簡単な機能訓練を受けられる。趣味活動が活発。
- 集団での活動が中心で、レクリエーションで外出の機会が多い。

デイケアに通うことで、どんな効果が？

- ① 体力の維持・向上。
- ② 寝たきりを予防。
- ③ 病状の変化や悪化、介護負担の気づき。
- ④ ③の変化に合わせてサービス内容を変更。

通所施設って？

1. 通所リハビリテーション(デイケア)

2. 通所介護(デイサービス)

★小規模多機能型居宅介護

★療養通所介護

デイケアに通うことでどんな効果が？

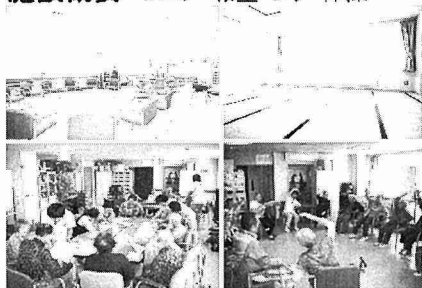
- ⑤ 家族は自分の時間を作ることが出来る。
- ⑥ 介護の大変さを共有してくれる人が出来る。
- ⑦ 医師、看護士、介護福祉士、作業療法士などの専門職があり、医学的なリハビリと健康管理、介護を受けることが出来る。

札幌しらかば台病院デイケアの特徴って？

■ 小規模

- ★アットホームな温かい雰囲気。
- ★家族や利用者の一人一人へ。細やかな関わり。
- ★利用者の小さな変化への早い気づき。
- ★会話や笑が多い

施設概要 フロア・和室・レク・体操



【その他の宣伝活動として】

- ①院内への周知・宣伝としてポスター作成・掲示
- ②一般向けの情報源としてホームページを作成
- ③居宅介護支援事業所へ空き情報の送付
- ④在宅ケア連絡会への参加とチラシ配布などを行っている

同時に、宣伝の基本となるサービス内容を見直し、リハビリをより強化した内容を追加している

【おわりに】

- ①通所リハビリテーションは医師の指示に基づき、医学的なりハビリテーションを実施する所である
- ②外的要因に対抗するには、パワーリハビリスタッフの充実を図り、ハード面を強化していく必要がある
- ③通所リハビリテーションについて、職員全体が情報として知っていると、患者・家族へ適切なサービスの案内が出来る。

各種施設の違いと特徴 ～事例から読み取る退院支援～

診療技術部 地域医療連携室

○MSW 川端 毅

共同発表者

江平 裕可 笠原 綾乃 坂田麻衣子

川原 朋生

【はじめに】

一言に「施設」と言っても、関係法令や運営主体の違いにより、さまざまなものがある。

本人の病状等を踏まえ、施設の機能、サービス、金額を検討していくことは容易ではない。従って、職種間で情報を共有し、早い段階からスムーズな退院へ向けて支援をしていくことは重要であると考え。ここに事例をもとに退院支援をシュミレーションしたので報告する。

【目 的】

院内での連携をスムーズにし、入退院時の不要な混乱を無くす。

【方 法】

- ・各施設の分類について一覧表にして整理をし、パンフレットなどの資料で調べる。
- ・各施設へ電話で特徴や受け入れ状況等の情報収集をする。
- ・施設を訪問し管理者やソーシャルワーカーに会い、情報収集をする。
- ・資料としてまとめ課内勉強会を実施し、自部署内で理解を深める。

【事例①】

73歳女性。脳梗塞後遺症のため入院中であり、最近入院期間が長くなってきたため今後の方向を検討することとなった。

夫は他界しており、同居の息子が1人いるが、仕事をしており自宅での介護は難しいと考えている。また、経済状況は、国民年金で月額約8万円程度の収入である。